黒染を取り入れた表現技法

大阪芸術大学　工芸学科　准教授　舘 正明

染色には黒染（くろぞめ）というものがある。黒染とは文字通り布を黒く染めることを指し、紋付、黒留袖など、フォーマルウェアの着物製作業者にも黒を染めることを専門に行う黒染業者がある。これまでの制作経験では、布を黒に染めることは難しく、黒に染めようとしても黒にはならないため、制作に黒を使用することは避けてきた。本研究「黒染を取り入れた表現技法」において、これまで取り組んできた「染まることに重点をおいた染色表現」に、黒染を取り入れるための研究、実験、制作を行った。

2021年より制作を始めた「spots」シリーズの制作において、染め重ねた染料が予想以上に黒く発色することがあった。これは黒染の技法でいう「三度黒」に近い効果があるのではないかと考えた。しかし、本来の「三度黒」は媒染染法であり、使用する薬品に制約があるため、本研究には適さない。そこで本研究では「三度黒」の染色で行われる、刷毛で染料を塗る「引き染め」によって染料を染め重ねる方法を取り入れることとした。また、黒染には被染物を染料の溶液に浸して染める「浸染」も行われる。その際、黒の染色の前に赤や青の下染めが行われ、異なる色相を染め重ねることでより深い黒を作り出している。その工程を参考に三原色を引き染めにより染め重ねることで布の中で染料を重ね合わせ黒を染めることを目指した。まずは色料の三原色であるシアン、マゼンタ、イエローに近い発色が得られる染料の見当をつけ、その重ね染めの実験を行った。染料は色相により布への定着が異なり、3色を同じ濃度で使用しても黒とはならなかったため、布への定着が良い色相の染料濃度を下げ、定着が悪い色相の染料濃度を上げる等の調整を行った。結果としてシアンに近い色相に発色する染料の濃度を最も高くし、次いでイエロー、そしてマゼンタの染料濃度を順に低くすることで黒に近い発色を得ることができた。しかしながら、まだ十分な黒とはなっていないため、3色を1回ずつ染め重ねるだけでなく、複数回染め重ねることも試したが、その効果は僅かで、本研究の制作工程では3色を各1回、染め重ねることとした。

黒染で主に使われている布は着物を対象としているため絹が多く用いられる。それに対し、私が制作に使用してきた布の素材は綿である。染める布の素材が変われば使用する染料も変わるので、前述した内容を綿と反応染料の組み合わせで行った後、絹と酸性染料の組み合わせでも項目を絞り行った。

以上のような実験を踏まえ黒染を取り入れた表現技法の制作を行った。三原色を重ね染めする実験の中で、染め重ねる順番によって染め上がりの発色が異なることに気付いた。浸染で染められる黒染では前述したように青色を染めた後、黒の染料を染めるもの、赤色を染めた後、黒の染料を染めるものがあり、それぞれ「藍下（あいした）」「紅下（べにした）」と呼ばれる。これらは一見すると判別はつきにくいが、突き合わせて比べるとその違いがわかる。本研究の実験中に気付いた発色の違いもこの「藍下、紅下」に通ずるものがあると考え、染め重ねる三原色の順を変えることで生じる黒の差異に注目した「spots―たんたん」（910×910mm）6点を制作した。また、三原色で作られた黒と三原色にグレーを加えた黒の差をグラデーションで表現する「spots―しんしん」（910×910mm）4点を制作した。これらの作品を「挑む二人」舘正明・加賀城健展（ギャラリー恵風・京都）や International Exhibition of Contemporary Textile Art FIBREMEN7（Ivano-Frankivs'k Ukraine・ウクライナ）へ出品した。

現段階ではある程度の黒を三原色を用いた重ね染めによって染め上げることはできたが、黒染のような深い黒を染める結果に至っていない。より深い黒を染め、制作に取り入れられるよう今後も研究を続けたい。

黒染に関する技術、知識を研究、実験、制作の参考とするため見学を行った業者、施設を報告する。

・馬場染工株式会社（京都市中京区）

創業1870年。京都市の伝統産業品の京黒紋付染を製造。黒染のみを行う。「京の黒染屋」として様々な色の洋服を黒に染め直すリユース事業も行なっている。

・京都伝統産業ミュージアム（京都市左京区）

京都の伝統産業を紹介する展示施設。浸染、引き染めによる京黒紋付染の製造工程が紹介され、その違いが興味深い。

・山勝染工株式会社（名古屋市西区）

創業1919年。伝統工芸品の名古屋黒紋付染を製造するが各種無地染も行うところに京都との地域性の違いが見られる。現在は残念ながら名古屋黒紋付染はほとんど製造されていない。「中村商店」というブランドを立ち上げ名古屋黒紋付染の経験を活かした洋服等の商品を製造、販売している。工場見学で職人による帯生地の染め替え、色合わせを見学した。